平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0590200069		
法人名	社会福祉法人　能代市社会福祉協議会		
事業所名	能代市緑町グループホーム		
所在地	秋田県能代市緑町7－17　（電話）0185－54－8511		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

併設しているデイサービスと養護老人ホームとの3施設では、近隣自治会と災害協定を締結し合同で防災訓練を行い非常時、緊急時には、地域住民の応援をいただく体制となっている。また、養護老人ホーム入所者とは、観桜会やつつじ祭り、秋の小旅行などを合同で行い交流を深めている。毎年開催しているクリスマス会は、ご家族を招待し穏やかな中で行っている。夜間は、夜勤者を2名配置し緊急時にも迅速に対応できるよう安心安全を第一にしております。日々の生活に張り合いが持てるよう温かい雰囲気で支援をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

季節を感じることのできる手作りの飾り物が施設内に飾られ、温かみを感じることができる。お風呂は温泉のように広くゆっくり楽しみながら入浴できる。3事業所が渡り廊下でつながっており、合同の行事などで地域住民との交流があり、地域の福祉施設として根付いている。ホールでは大きな声、笑い声が響き渡り楽しさが伝わってくる。作品作りやゲームなど利用者、職員が一緒に楽しんでおり、手足を動かす、回想法などリハビリや認知機能にも有効な活動を行い、一人ひとりの能力に応じた支援をしている。要介護5であっても寝たきりにしないよう車椅子を使用せず離床時間を設け、介助の仕方を工夫しながら、グループホームの生活を継続できるよう支援している。退屈した時間をつくらない、ゆったりとした時間も設けながら、生活にメリハリを付けて脳の活性化を行っている。手作業などで活気を持ち、健康維持を図り明るく笑えればいいと職員は日々精励している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、職員は行っている。入居者それぞれの自分らしい生活を支援出来るように、職員が取り組んでいる。	事業所内諸所の目に触れる場所に掲示され、年度初めや職員会議で確認している。誰にでも理解しやすいよう、理念の中の5つのキーワードを「5原則」としてホールに掲示している。生活に関わるケアの総合的な理念になっており、行動指針として職員は常に意識し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や近隣の住民の方々に行事（夏祭り、餅つき大会等）に参加して頂き、交流してもらっている。	3施設が廊下でつながっており、合同で、夏祭りや避難訓練を行える。行事の際には地域の各家々に案内を配りながら声を掛けている。交流を通して顔なじみになり、散歩の際は挨拶を交わしている。保育園児や幼稚園児、小学生の訪問もあり、お手玉や紙風船、めんこなど懐かしい遊びを一緒に行ったり、歌や手作りのプレゼントを頂くとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会や地域の住民の相談にきたときには、話を聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を行っている。行事や防災訓練、事業の報告等などを伝えて、意見を頂いている。サービス向上に反映できるように取り組んでいる。	日常の様子など、写真を見ながら会議をすすめることで、事業所の取り組みを具体的に伝えながら情報交換を行っている。会議後に、クリスマス会へ参加したり、毎回のように利用者との交流や利用者の作品作りなどの活動へ声を掛けてくれ、利用者、職員の士気につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月１回は事業所に訪問して頂き、情報交換等行っている。サービス向上に向けて改善したところなど伝えている。	市の指定管理になっていることもあり、毎月市職員の訪問がある。事業所の実情を見てもらい積極的な話し合い、またアドバイスを受けている。地域包括とも連携しながら運営に役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に基づき、身体拘束はしないケアを取り組んでいる。入居者に対しての接遇・マナーの研修など行っている。	内部研修を毎年行っている。マニュアルは職員がいつでも見れる場所に置いてある。身体拘束の事例はないが、身体拘束廃止委員会を設置し、管理者会議で広義での拘束を含め話し合いが行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議等で意見の交換や確認など行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	遠方にいる入居者のご家族からの相談などでは権利擁護などの内容や様々なサービスがあることを説明して支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を使用して、十分な説明をしている。本人、家族からの疑問や質問に対して、柔らかい言葉を使い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を見えやすい場所に設置している。会話のなかから、ご本人、ご家族の思いや考えなど聞き取っている。	毎月料金の支払いに来訪された際に、家族から話しを聴き取っている。排泄用品を布パンツと尿取りﾊﾟｯﾄﾞに変更したいと提案したが、家族は失禁が多いのでリハビリパンツを使用して欲しいと希望された。取り合えず1か月様子を見て欲しいことを家族に提案し、結果、家族の納得を得て変更したとのこと。事業所の意向を無理強いすることなく、家族と一緒に利用者のケアを真摯に考えている。利用者の誕生日には食べたいものを聞いて提供している。聴き取れない時もあるため、体調のいい時など個々に対応しながら聞く努力、配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社会福祉協議会全体で年2回のアンケートを実施して、勤務状況やストレスについて聞き取れるようにしている。意見や不満等についての訴えがある場合には管理者等が話を聞いている。	伝達ノート等を活用することで、意見や提案を伝えれるよう工夫している。病院受診の際に、「玄関を開けたままだと雨風が入ってきて寒い。」との現場職員の意見から風除室を設置した。また、夜勤は2人体制であることも職員の安心、働きやすさ、定着に加担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ、資格取得により給与に反映するようにしている。職員個々に役割をつけることにより、やりがいを感じられるようにしている。話しやすい職場環境を作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や感染症、マナー・接遇の内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて交流する機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境と雰囲気作りに努めている。ご本人の言葉を受け止めて対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族とどのような形で支援していくのか話をしている。個々の入居者それぞれが安心して生活出来るように取り組んでいる。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士で一緒に作業出来ることを見つけて行ったり、職員と一緒に作業するなどそれぞれが出来ることを見つけて行うようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や考えなど話を聞いて、ご本人を支えていく関係作りに努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人など付き合いが途切れないように年賀状を送っている。電話での会話も自由にしている。	毎年、感謝の言葉を含めたその人らしい温かい年賀状を家族などに送っており、つながりを深めている。敷地内廊下でつながっている施設入居の知人との交流もある。家族の協力を得ながら、墓参りや外食、行きつけの美容院など暮らしの中で大切にしてきた人、場所、事柄など継続できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が見守ることで、入居者同士の交流が出来ている。職員が声がけすることで、和やかに入居者同士の関係性が保たれている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	わからないときにはいつでも相談して欲しいとご家族にもいつも話をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えや要望などは真摯に受け止めている。安心して話せるように心掛けている。	繰り返し話すことも本人の不安要素が原因の可能性が考えられるので、その時の気持ちと受け止め真摯に対応している。安心して話しやすいよう、工夫し明るく声掛けをしている。職員会議で声掛けの仕方を含め困っていることなどみんなで話し合い改善している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族からの情報で過去の生活歴や人間関係などを把握して考慮しながらご本人と向き合っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の性格や健康状態を見ながら、一人一人に合わせた生活を過ごしてもらっている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞いている。職員からも現状の課題を話し合い、職員会議で検討している。	担当制としているが、ケースファイルに介護計画をセットし、職員全員が把握し実践につなげている。本人、家族、職員の思いや意見を確認しながら反映させている。	担当者会議録から現状の課題など話し合い反映されているが、日常の記録から介護計画への連動性が判然としない。不規則勤務のこともあり効率的でわかりやすい記録は適切なケアにつながる。職員全員で記録について検討することに期待したい。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースファイル、申し送り等で記録して情報を伝えている。記録を基に介護計画に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア訪問も多く、幼稚園児からご年配の方まで幅広くきて頂き、一緒に参加して交流している。歌や踊り、お茶会または草取りなど様々な人々に触れることが出来ている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家庭と相談のもと、かかりつけ医への受診、または往診、訪問歯科など個々に合わせて支援している。病院、薬局等の連携も出来ている。	本人や家族の希望に応じて、利用前からのかかりつけ医の受診、薬局を継続している。希望により家族が対応している利用者もいるが、基本的には職員が対応している。受診後は家族に電話で報告、また職員間では伝達ノートを利用し共有している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している施設の看護師と連携が取れているため、相談やアドバイスをもらっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人・家族の考えを聞き話し合いながら、医師や看護師と相談している。そのため、退院時にはすぐに迎え入れらるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適切な支援が出来るように、家族と話し合いの場を持つようにしている。職員も情報を共有している。	入所時に事業所でできることを説明している。入院時には、家族を含め病院連携室と方向性を話し合い、適切な対応を図れるよう努めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員がAED装置、人工呼吸などの救命講習を受けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練と夜間招集訓練を実施している。消防署、自治会からも協力してもらっている。自治会とは災害協力協定を結んでいる。	自治会や地域住民なども参加し、法人の合同訓練を年2回実施している。日中、夜間、また想定しうる火災、水害などの訓練を行っている。その他、備蓄や電話伝達訓練など有事に備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の考え方や生活リズムを理解しながら他入居者と交流できるように配慮している。食事、入浴、排泄等に関してゆっくりと時間を使い、本人に合わせながら支援出来るようにしている。	一人ひとりの個性を生かしながら、人前であからさまな言葉がけをしないよう、日々話し合い、研修などを行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の考えや思いを言葉に出来る和やかな環境を作っている。入居者それぞれの考えや思いについて話されているときは、ゆっくりと最後まで聞いている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の考えや行動を大事にして、見守っている。ご本人が出来ることは見守り、出来そうなことを援助しながら、支援出来るようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問理容を利用している。洋服などは好みを理解した上で、洋服屋さんに衣類を持って来てもらい、入居者に選んでもらったりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理、片付けなど入居者個々に出来るところを手伝ってもらったりしている。おやつなど手作りする時には他入居者と交流しながら行っている。	献立は同法人の栄養士が確認し、カロリーや栄養素が管理されている。盛りつけなど利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行っている。日常生活の場面でさりげなく見当識に配慮し、毎食交代で利用者の一人が「○月○日、○食をいただきます」と声を掛け、同じ食卓を囲んで食べている。テレビを消してBGMを流し、食事に集中し落ち着いて食べれるよう工夫している。汁椀、箸は利用者の持ち込みで、盛りつけの皿も家庭的なものを使っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士から指導をもらっている。バランスの取れた食事提供に努めている。水分の摂取は毎日、こまめに摂っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをして、必要な方には支援を行っている。夜間は義歯を預かり洗浄剤の使用を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや表情等を確認してトイレでの排泄が出来るように支援している。日中はなるべくリハビリパンツの使用を減らしている	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、トイレでの排泄等自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツから布パンツになった事例もあった。時間帯など、一人ひとりに合わせリハビリパンツ、パッドの使用を検討している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を摂り、こまめな水分補給をしている。体調に合わせてヨーグルトを食べたり配慮している。体操などの軽い運動を毎日している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに4、5人が入浴している。入浴のない日は清拭、足浴している。本人の希望で入浴したくないときは調整して別の日にしている。	温泉のような広い作りで、利用者は会話を楽しみゆっくりくつろぎながら入浴できる。24時間風呂となっており設備の管理上、使用制限があり、その日は足浴などで対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活のリズムに出来るだけ合わせてゆっくりと休息してもらい、過ごしてもらっている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り帳を活用して、個々の薬について申し送りをして理解出来るようにしている。薬の変更後の状態など記録している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割をもち、日課で行ってもらえるように支援している。行事やレクリエーションなどへの参加を促して気分転換や楽しめる環境を増やすように努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉、祭りなど出来るだけ参加を呼びかけて外出する機会を設けている。併設施設との合同行事や自治会との行事等にも参加している。買い物なども行っている。	本人の思いや、生活継続の外出を支援している。家族と外食や墓参りに行かれる利用者もいる。馴染みのスーパーが週2回来訪、床屋の訪問も2ヶ月に1回あるが、馴染みの美容室を継続して利用している人もいる。四季折々に法人のバスを使用し出掛けたり、散歩や敷地内の芝生の庭で外気浴をしたり、バーベキューなど戸外に出て楽しむことができる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお小遣いとして預かっている入居者には必要な物品や衣類等、要望を聞いたり選んでもらったりして購入している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望や家族から電話があったときには使用出来るようにしている。毎年、年賀状を入居者が書いて送っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、頂いた手作りのプレンゼントなど飾っている。トイレ内も掃除をこまめに行い、空気清浄機を置いて、清潔にしている。カーテンも2枚取り付けており、天気によって使い分けて使用している。	ソファーがあちこちに置かれ、利用者はその時の気分で好きな場所で過ごすことができる。また事業所内は2段手すりがついており、利用者の状況により使用できる。利用者の声を引き出しながら一緒に作った手作りの飾り物が事業所内のあちこちに飾られ温かい雰囲気となっている。利用者に縄を綯ってもらい干し餅や干し大根など季節を感じる作品が飾られていた。日にちがわかりやすいよう工夫した手作りのカレンダーが生活の様々な場面で活かされている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファーなどを置いて好きな場所でくつろげるように設置している。和室なども利用出来るようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室には家族の写真やぬいぐるみ、花や造花などを置いて、過ごしやすい環境に努めている。	窓が大きく日ざしが入り明るく、夏は風通しの良い部屋となっている。また、芝生の庭や木々、畑など外の景色も楽しむことができる。それぞれが飾り物や使い慣れた物を持ち込み、その人らしい居室となっている。職員は必ずノックして部屋に入るなどプライバシーにも心掛けている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前をつけて、ご本人が確認でいるようにしている。トイレもわかるように表示している。歩行時に障害物など無いように安全に努めている。		